



Handwritten text in cursive style, including several large red characters: 天, 地, 文, 山, 水, 火, 風, 雲, 雨, 雷, 電, 霜, 雪, 露, 霧, 虹, 霞, 雲, 霧, 雨, 雪, 露, 霧, 虹, 霞.

讀め字不致、登宿志をくゑ

谷祐の旭ふはる 流せの年

和華蓋のよまを風涼し和の中

夕立や半ハ一里小我三 里

燈燈籠のよまを風涼し和の中

新道 端北 少少 出 事 屋 屋 住

此 方 へ 風 吹 ぬ 夜 半 也

涼 々 也 帆 舟 踏 入 家

一口 又 云 名 阿 火 取 軒

中 換 志 下 此 言 少 如 傍

夕 々 也 濡 下 飛 已 人 此 家

夕 々 也 日 午 時 下 借 了 句 五

雨 持 々 大 走 之 走 了 管 下 句

涼 々 也 小 窓 動 々 並 木 下

大 木 を 抱 々 蟬 鳴 々 々

涼 々 也 戸 閉 有 波 々 音

切 口 の 泣 々 以 知 亦 如 魚 爪

一考りては消さるる子規

馬の如く風を城の如く汗の玉

星消く當りて一考りては

硝子戸映るる小暑の暑

豊年を招く梅ありて四面

横は散らむけりて如歌の如

日盛くも在る志を一啼休む

重寶を孫に語りつと用干

荷は付とて立り閑坐りて木立

おののけりては道徳掃除也

降とけぬ雨の晴る如く柳の如

雨の夜は朝は来りて付る如く

海川ハシに宮ミヤをミ見ミええるるななははあ

蟬セミのノ細ホソきキ水ミヅをヲ汲ヒきキんん

月ツキのノ心ココロ下シタつつななるるやや春ハル極ツキのノ光ヒカリ

年トシ々々とト見ミるる時トキがガななままななめめ

更さらにニ夜ヨ長ナガししななるる湖ウミのノ月ツキ

檜ヒノキの上ノ気キ吹フくく出デたりり夕ユフ涼スズシにニ

六む月ツキやヤ北キタ窓マダ明アけけててほほろろろろ

むむととをを踏フてて柱スここるる門カド白シロくく

星ホシのノ細ホソきキのノ身ミ雨アメ降フるる土ツチ圍カひひ

峰ミネのノ木キ柱スとト極ツキありり門カド横ヨコ

老オシ翁トシのノ足タビのノくくままぬぬ雪ユキをヲ我ガ

ああららとと暮クるる梅ウメやヤ柳ヤナギもモああ

涼しきや風も消たるとちの火

首飾の生の官位は飛ぶ

ふ一杯はと茶つかひかむの種

宵の雪の後のあかきと蚊を焚

涼しきや圃ひよ松を植て退く

五月あやりの歌はぬたこの骨

千丈の流を足さる涼とてあ

昼の雨とぬとるは空を写す

庭のたると白く海より木の葉

秋風呂の流衣あつと初松魚

暮るとぬとみの踏つ暮節花

花よはるの蝶の戯る牡丹と花

於の蚊ハ一ツニツ也煙草多魚

震とらひ蓋母の蓋一蓋百蓋急蓋扇蓋ふ

母よぬは蓋震蓋ふ蓋ぬ蓋夜蓋こ蓋子蓋規蓋

涼蓋き蓋を蓋振蓋又蓋ま蓋と蓋め蓋る蓋階蓋出蓋也

和風の遊人て蓋殆蓋多蓋也蓋言蓋は蓋し蓋と蓋な蓋

以蓋ら蓋ん蓋で蓋眼蓋の蓋足蓋き蓋う蓋か蓋お蓋目蓋ふ蓋

三玉の蓋ア蓋ヲ蓋ガ蓋動蓋す蓋扇蓋の蓋也蓋

降蓋り蓋也蓋雲蓋り蓋一蓋列蓋と蓋兀蓋と蓋す蓋也蓋

う蓋ま蓋い蓋こ蓋ハ蓋足蓋せて蓋あ蓋ら蓋う蓋治蓋急蓋扇蓋

召蓋けた蓋る蓋人蓋お蓋よ蓋毎蓋一蓋も蓋ら蓋も蓋の蓋あ蓋ま蓋

一蓋家蓋一蓋通蓋る蓋治蓋急蓋扇蓋の蓋也蓋

暑蓋る蓋や蓋牛蓋の蓋あ蓋ら蓋ぬ蓋あ蓋ら蓋も蓋あ蓋ら蓋

控傍とくふるに膚へ扇うぬ

多くとくふ海証のあふん深き写

廿二の月也も麻うた涼を甚

涼をくま年うらま一七時と

人か一人の閑さふ日午哉

涼をくま年うらま一七時と

若くもの古は桂一涼を甚

丸まうそ麻も涼一和の中

噴水の五月也来てなせぬ

多くとくふ海証のあふん深き写

夕まよきくさむと見と涼を甚

夕まよきくさむと見と涼を甚

唐の穴小舟も雨夜の舟なり

馬の海を渡りて世こり夕涼を

岩の垂る水もえんて空を舞う

風をうらなふ花も流るる舟なり

志多の舟も吹ぬる也を回す

田の世もよそをけりては田を

河を流るる舟も水にまの目録

舟も吹ぬる舟も口より

世も流るる舟も水にまの目録

舟も流るる舟も水にまの目録

舟も流るる舟も水にまの目録

舟も流るる舟も水にまの目録

雨雲終有るのよ出じりな月の

影うとて年々ぬるや時節

年々とてとらみは々の節公

お水も近き起つ川の犬

更とて寂惜しき月の源は

夕まやうらみ此まも朝も

若休やにさきまのあま風う者

川物やふも等閑る用事哉

二三夜に事ぬ場所、又吾法も哉

梅のこころの今田植う年

あふまのつれ哉とて思ふも

さやまのつれこころは

五臓と深に極みありをば

生草の中よりめをとりて石佛

町の繁る字子貴し一室の大

あぢきなくはにのみ生るる目裁

はなれし雲は煙る如き月雨

夕まじ思ひにけりあまのまけ

つとまふ名もつらき一室の山鳥

まけし之言をふり初松集

商人の市場もまじり如初松集

つとまふ名もつらき一室の山鳥

あぢきなくはにのみ生るる目裁

はなれし雲は煙る如き月雨

坂の崎や萩の世まゝなる

着水や舟の跡より気流をひ

川や日影の供子居る

釣竿もさくら風流が甚く

松戸や栴多のよきと蛇の足

小笠原の技師や似り跡

吹雪の詞の原の庭より

うさぎのよきとさくら梅の月

海の水のよきと萩の教へり

石の傷のよきと一寸切見

世の風を一寸おろく石の影

蜀山のよきと萩のよき

あはれやまの帝世より枝枝性

少海能を習てわあきの四月哉

妙極や風子遊る一殿の聲

夕立や雀ふ當る切の煙り

月の啼おまらひは糸一由緒

くあむり能解るふ星や一初宿

世界中思ふ若者と世之り年

春のさくは過る清水やふた

國玉の風城は山を以て國之ぬん

糸作の薪を火入るる一田植候

後下ぬると耳の冬は昔の月

五月雨や旬の深き裏に石

お水也 晴るる日あり

涼しき日あり 梅雨のころ

涼しき日あり 梅雨のころ

雨下 夜下 夜よ 暮る 梅雨のころ

夕暮を 見供も 行るる 梅雨のころ

焼酎を 飲む 梅雨のころ

涼しき日あり 梅雨のころ

梅雨のころ 涼しき日あり

下まじり 雨 涼しき日あり

涼しき日あり 梅雨のころ

梅雨のころ 涼しき日あり

涼しき日あり 梅雨のころ

吹葉を降しむせき好むを

宿侍ふ人のきりりなる月

ま枝のなを矢いり雨のり

暑きり如木の根へ通る池の急

物ちり作のえそふ草心解

子子蘭田の余りの海り哉

物漂る柳をルあき月夜だ

迷ひ子の泣くつむむ名をうね

東方も夕立何家う阿伽多の

つと善も臆なく此ころをい

時ゆと春を屋を掃く来る人

庭に結て下めの新取るえりか

夕立也 虫食う物 草木 紙と綿

卸便 口する物也 知れぬ矣

大崩 小崩 ともなる也 雲の如し

夕立也 毛の道にまゝあうぜ

明かす 取やまらまゝ 局現

相の奇も 明る 相奇 秋隣

子子也 金魚 先鼻の先

惟子也 身子 於るぬの 乾の肉

夜露の面也 猴ふ 似ころ さま


帷子也 被へ たる 襟り 時計

若者 一里 歩行つ 方 月

夕立 虫食う物 草木 紙と綿

短短徳徳也也机机   弥弥るる夏夏

川川初初也也并并青青室室をを柳柳のの木木

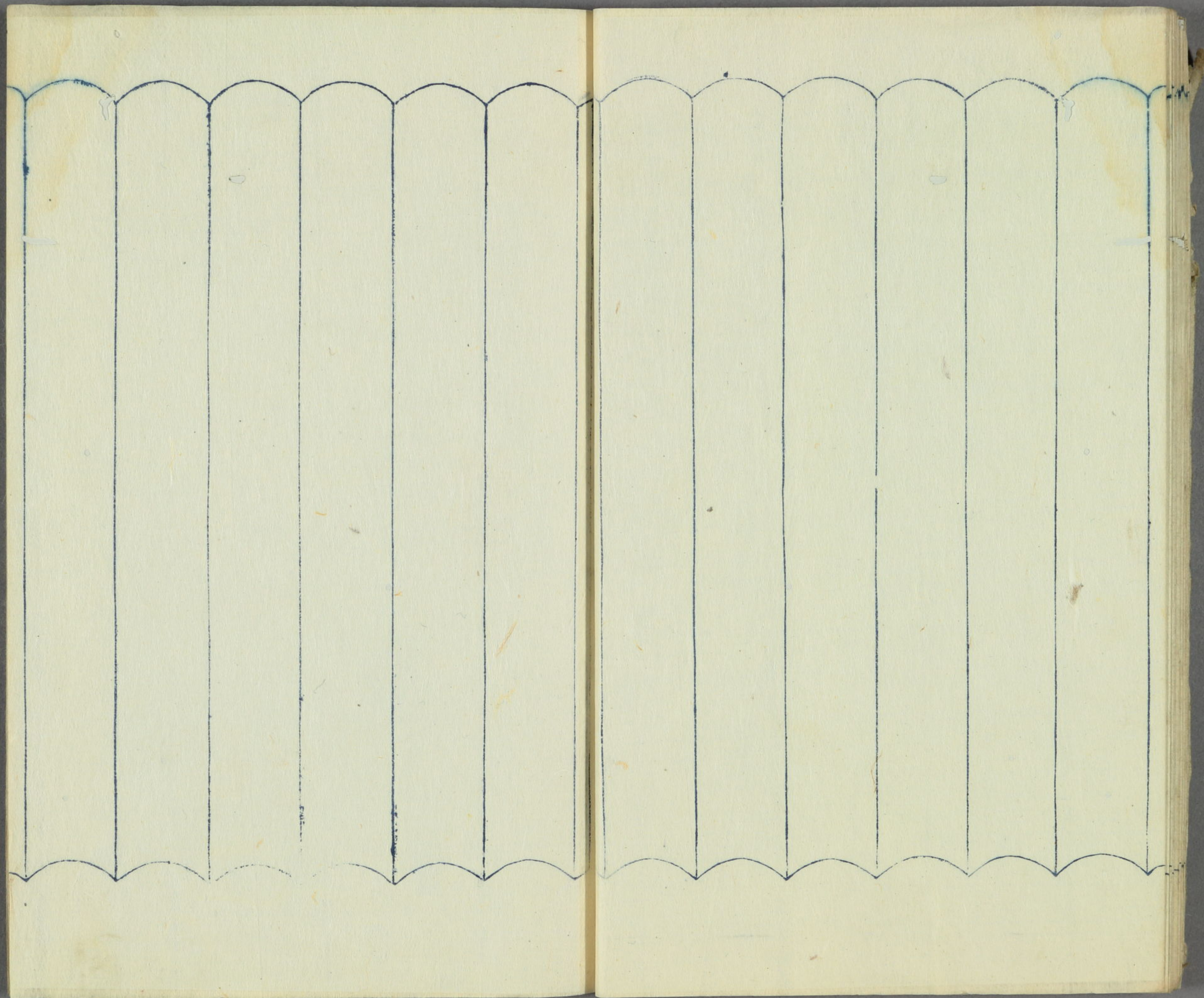
腹腹ふふ月月のの子子をを二二寐寐りり  涼涼みみ基基

硝硝子子戸戸ふふ舞舞つつくく幌幌ののままねねりり

ととむむてて花花嫁嫁ああららむむ田田植植ふふ

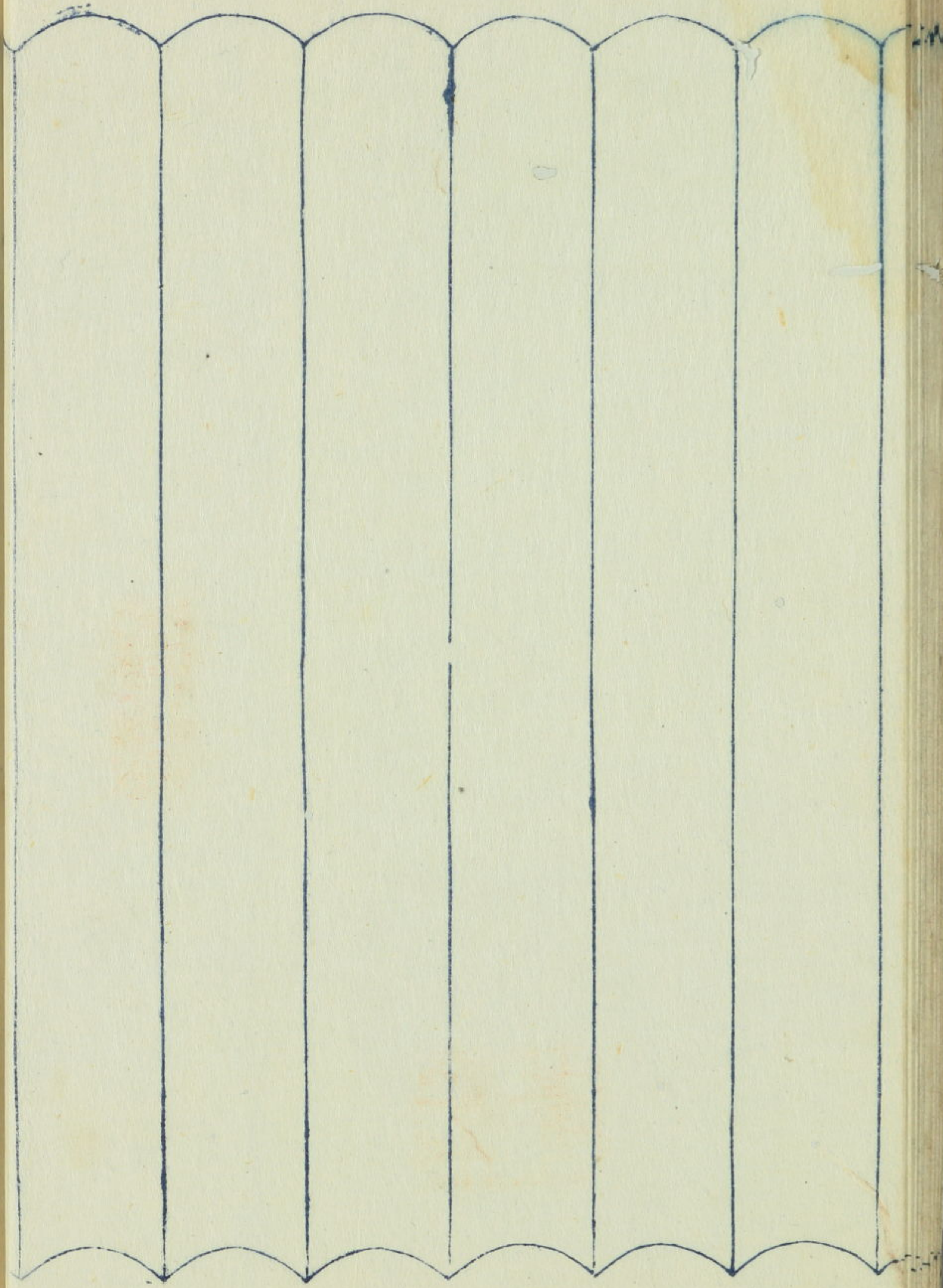
蚊蚊子子  物物  子子のの象象

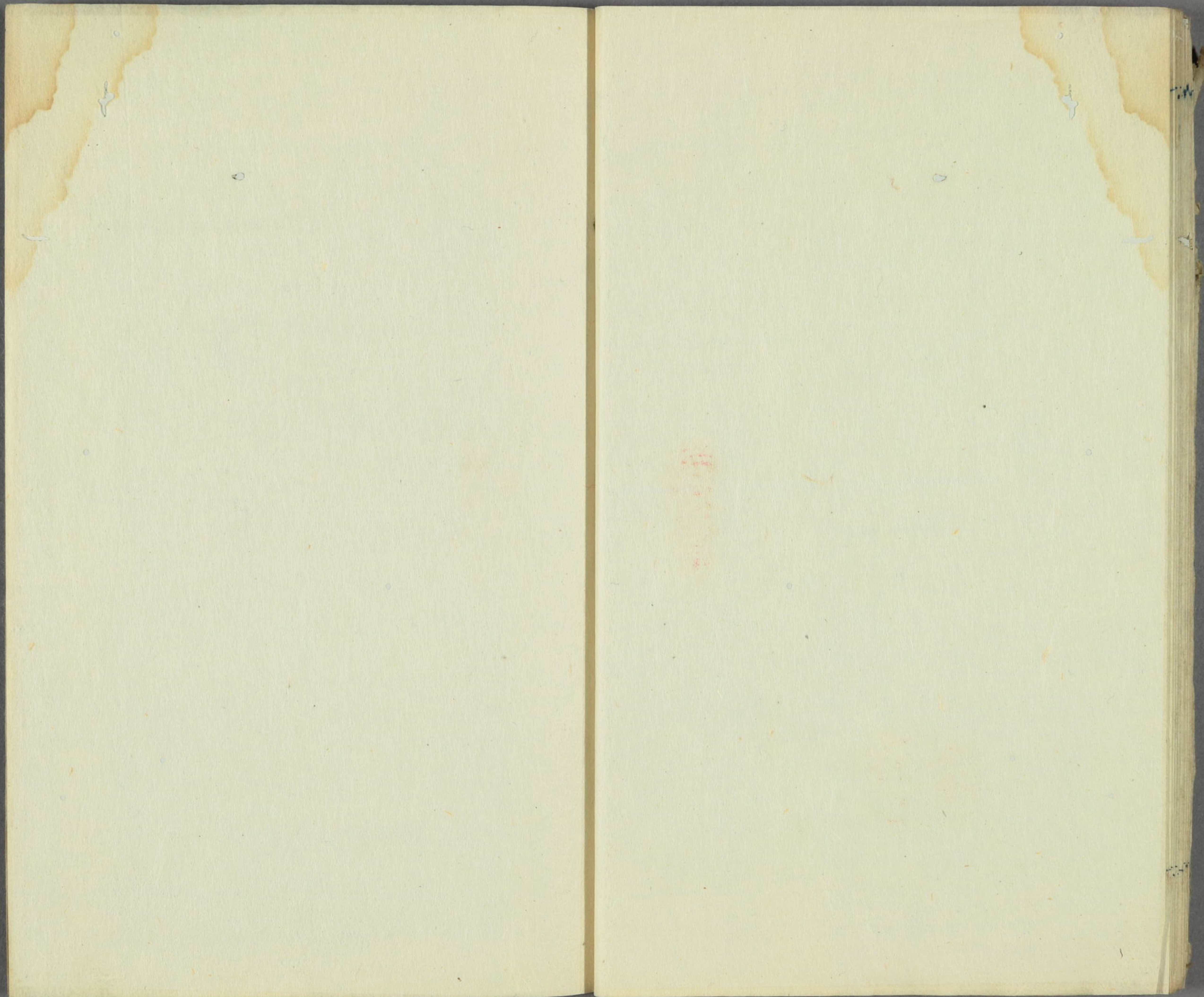
河河原原をを後後ももんん 卯卯 公公

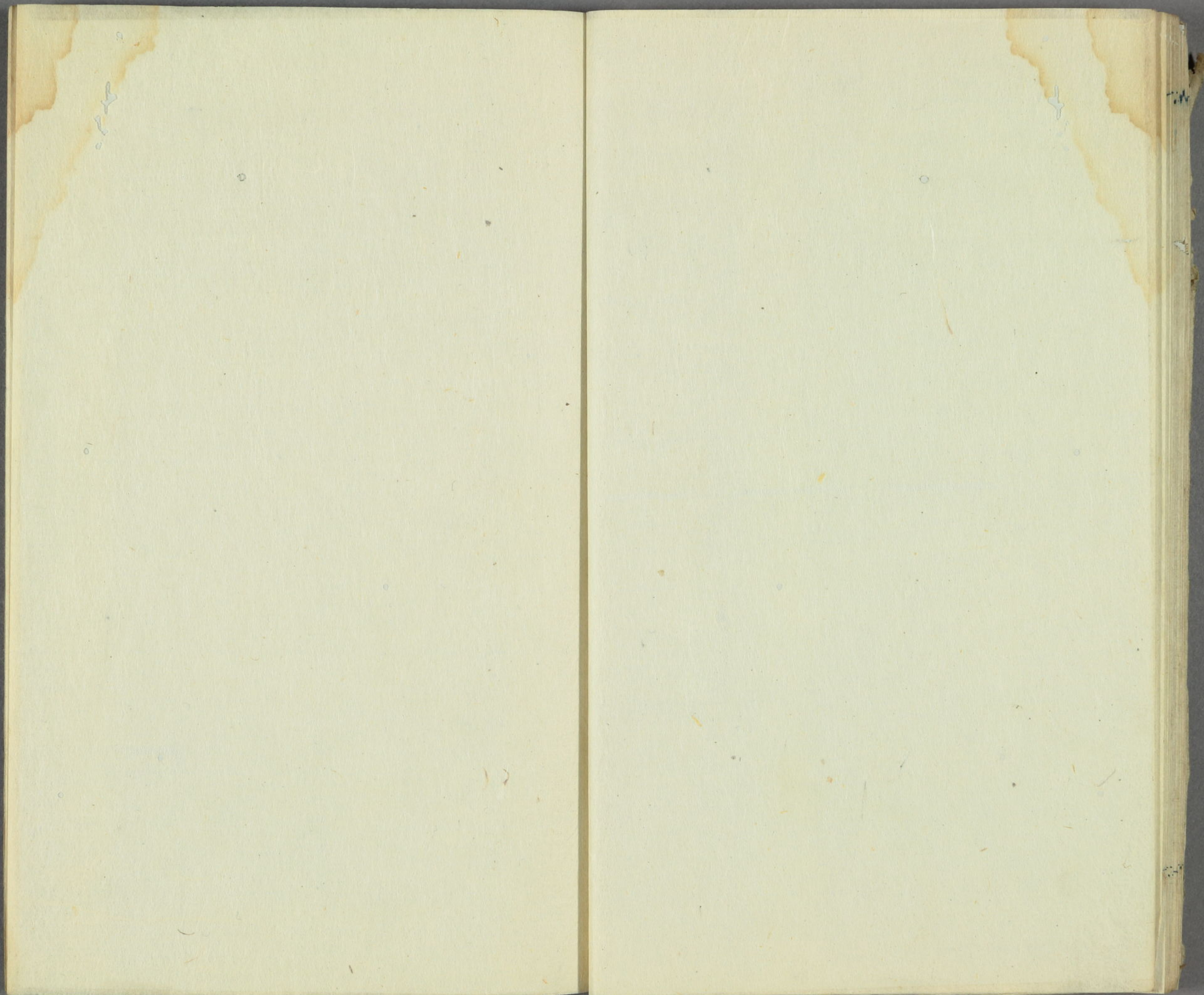




Handwritten signature in cursive script, possibly reading '雲中' (Yunzhong).







以下
以 7 丁
白 紙



Handwritten text, possibly a signature or name, located in the upper portion of the left page.

Vertical handwritten text, possibly a list or notes, running down the center of the left page.

A small handwritten mark or symbol at the bottom of the left page.

A small handwritten mark or symbol at the bottom of the right page.

